

大規模なセアカゴケグモ生息地

平成21年12月15日に一通のインターネットメールが衛生動物部門のパソコンに着信しました。「セアカゴケグモと思われる写真を添付します。鑑別してほしい。場所は、伏見桃山城運動公園です」とのメールです。添付された写真には、セアカゴケグモの特徴である背中に赤色のiの字模様が明瞭に写されていました。早速、管轄の伏見保健所にその内容を伝えました。伏見保健所は、直ちに現場に駆けつけ、調査を実施されましたが、既に夕刻であったことから、暗闇の中での調査は困難で、新たなセアカゴケグモの発見はできませんでした。

伏見桃山城運動公園では、サーカスが開催される予定です。そのため、たくさんの資材が運び込まれています。そんな資材に付いて1個体だけが紛れ込んだのかもしれないと楽観していましたが、その後の調査の結果は、大きく異なりました。

調査開始

発見された翌日、伏見保健所と合同で調査を実施することになりました。最初に発見された場所を調査すると側溝の鉄製のグレーチングの周辺に多数の個体が見つかりました。多くの方が来場されるサーカスの開催場所周辺は、最も注意が必要な場所です。サーカス開催場所周辺の調査を行ったところ、側溝のグレーチングやフェンスの基部から多数のセアカゴケグモが見つかりました。最終的には、広報された内容のとおり、雌成体8匹、雄成体5匹、幼体27匹、卵のう3個を確認することができました。最初に発見された場所からサーカスの開催場所までは、直線距離にして300メートルにもなります。このことから、調査を実施した部分は、伏見桃山城運動公園のごく一部でしたが、定着していることは間違いないと判断し、管理者に対して、駆除対策を実施すること、セアカゴケグモがいることを来場者に周知することなどを指導し、当日の調査を終えました。

その日のうちに、管理者による駆除を翌日から実施することが決まりました。そこで、その駆除作業に立ち会い、セアカゴケグモの生息場所等を指導することになりました。サーカスが行われる多目的グラウンドと呼ばれる場所、野球場及び周辺の遊歩道の側溝のグレーチングのを上げ、雌雄成体、幼体、卵のうを除去したうえで、殺虫剤散布が行われました。17日と18日にわたって採集できたセアカゴケグモは、雌成体168匹、雄生体6匹、幼体312匹、卵のう120個でした。現場では、小さな幼体を採取することが難しく、多くの幼体を取り逃がしてしまいました。実際の幼体は、これよりはるかに多い匹数がいたと思われます。

インターネットによる画像転送

今回、最初に桃山城運動公園のセアカゴケグモを確認したのは、インターネットメールに添付されていた画像ファイルでした。

保健所と衛生公害研究所との間にも庁内メールが整備されています。また、最近のデジタルカメラは、拡大画像も簡単に撮影できます。さらに、簡易な顕微鏡カメラも保健所には配備されています。市民が害虫等を保健所に持参されて相談があった場合に、庁内メールを活用し、衛生公害研究所に画像ファイルを送り、衛生公害研究所で鑑別できれば、市民の方に「衛生公害研究所に標本を送ります。結果は、後日お知らせします」といった不便を掛けることが少なくなると思うのですが。



インターネットメールで
送られてきた画像



最初に発見された場所



多数のセアカゴケグモが発見された
グレーチングとフェンスの基部



グレーチングを上げての駆除作業



採集された雌成体